

## 【探究応援プロジェクト】

# 中高生の「消費者市民社会の実現」に向けた探究学習を 弘大生が応援するプロジェクト

加賀恵子

## 1. 背景と目的

弘前大学の消費者教育推進事業は、2020年度に「令和2年度『若年者の消費者教育の推進に関する集中強化プラン』における若年者の消費者教育推進のための実証的調査研究（文部科学省委託事業）を受託したことを契機に、附属中学校を含む教育学部と人文社会科学部の学部間連携や、近隣地域の高等学校との協力関係の構築が進められ、地域に対する消費者教育の取り組みとして新たな展開を見せ始めている。2022年度は、中高大連携による消費者教育の取り組みをさらに充実させるために、青森県内の中学生・高校生を対象とする消費者教育推進事業として、「中高生の『消費者市民社会の実現』に向けた探究学習を弘大生が応援するプロジェクト」を立ち上げ、中学生・高校生の探究活動を募集し、教育学部の学生がアドバイスまたはサポートする事業を実施することとした。

## 2. 内容

中高生の「消費者市民社会の実現」に関連する総合的な学習・探究活動を奨励するとともに、以下2点の募集を行った。募集期間は2022年10月1日～11月15日である。

### (1) サポート募集

サポートを希望する応募者には、教育学部の学生（「総合的な学習の時間の指導法」の受講生）がアドバイスを行うとともに、探究活動をサポートすることとした。

### (2) 成果発表募集

優秀な探究活動については、希望者は教育学部及び人文社会科学部の教員による審査・指導を経て、消費者フォーラム in HIROSAKI においてステージ発表を行うことができた。また、その他の希望者も消費者フォーラム in HIROSAKI の会場ロビーにおいてポスター発表を行うことができた。

## 3. 結果

応募状況と内容、その後の活動については以下のとおりである。

### (1) サポート募集

高校生17人、中学生1グループからの申し込みがあった。教育学部の宮崎充治（「総合的な学習の時間の指導法」担当者）の多大なる協力を得て、受講生4～5名のグループを編成し、中学生・高校生とオンラインツールを活用したり、直接対話をしたりしながら共に探究を進めることができた。

## II 探究応援プロジェクト



ポスター発表の様子（弘前大学創立 50 周年記念会館ロビー）

### (2) 成果発表募集

ステージ発表については高校生 2 名と中学生 1 グループ、ポスター発表については高校生 7 名から応募があり、各々発表を行った（ステージ発表の詳細は第三部を参照）。

#### <ステージ発表>

○館下陽奈乃（弘前中央高等学校）

「児童労働の子供とご飯を十分に食べられない子供をフェアトレード商品で救う」

○須藤安美（弘前中央高等学校）

「どうしたら我が家の食品ロスを減らすことができるのか」

○伊吹百萌・佐々木琉生・神 徳智・中島雪乃・松木颯汰・三輪幸花（教育学部附属中学校）

「青森県の地域の食材や郷土料理の魅力を発信しよう」

#### <ポスター発表>

○青島匠海（弘前中央高等学校）

「食から子どもの生活を救う」

○奥井美莉朱（弘前中央高等学校）

「食品ロス」

○佐々木倅大（弘前中央高等学校）

「ポイ捨てはダメ！」

○田中美月（弘前中央高等学校）

「環境に配慮した新しい食品の売り方」

○中田權翔（弘前中央高等学校）

「世界のプラスチック問題」

○中野然溪（弘前中央高等学校）

「飼料の自給率を上げる」

○山谷莉子（弘前中央高等学校）

「本の消費と熟読」

#### 4. 参加者の感想

大学生が中高生の「消費者市民社会の実現」に向けた探究活動に伴走するというプロジェクトから、高校生が多くを学んだだけでなく、大学生にとってもさまざまな学びがあった。俯瞰してみれば、持続可能な社会の構築に向けた参画・協働の姿であったと言えよう。

以下は、応募した高校生、サポートした大学生の感想の一部である。

○高校生の感想

- ・研究の盲点を大学生の方から示してもらえたので、改善点を見つけ、さらに良い研究にするよい機会になった。
- ・自分には想像できなかった探究のつながりを大学生が身近な視点で教えてくださった。
- ・自分では思いつかない割りばしの問題など幅広い環境の内容から指摘してくださってすごいなと思いました。
- ・大学生と交流する機会はなかなかないと思うのでよい経験になりました。自分で考えていることをうまくまとめて言葉にしてもらえて助かりました。

○大学生の感想

- ・率直に言えば難しかった。自分が担当した高校生は大きなテーマを扱っていたので、どうやって自分ごととして落とし込むかが大変だった。
- ・高校生がどのようなことに疑問を持っているのか、素直な意見が聞けて良かったと感じた。生徒さんなりの考えや感じ方をPPTから読み取ってどうしてその考えに至ったのか、実現可能な考え方を班で話し合うことで、高校生との向き合い方が分かったような気がした。貴重な体験ができてよかった。

（加賀恵子 弘前大学教育学部）

## II 探究応援プロジェクト

### 2022年度弘前大学消費者教育推進事業 中高生の「消費者市民社会の実現」に向けた 探究学習を弘大生が応援するプロジェクト

◆探究途中のサポート応募を大歓迎！  
「困ったあ、どうしたらいいのかな」と、今、正に探究中の皆さん。希望者には、弘大生がアドバイスします。

◇成果発表のチャンス！  
弘前大学で開催される「消費者フォーラム HIROSAKI」で、ステージ発表やポスター発表ができます。



皆さん、消費者市民とは何でしょう？  
消費者市民とは、「倫理的、社会的、経済的、エコロジカルな視点を考慮して、責任をもって選択し行動できる人」のことを意味します。  
自分のための消費行動が、他者や社会、地球のためにもなると考えて行動をする市民による消費者市民社会の実現のために求められるのは、困難な問題に向かい、粘り強く創造的に課題を解決していくための哲学や取り組みの手だてです。探究学習は、状況をクリエイティブに分析して試行し、協働して問題解決に取り組む力を育成してくれます。  
そこで、中高生の消費者市民社会の実現に向けた探究学習を応援するために、プロジェクトを企画しました。たくさんの皆さんの応募をお待ちしています。



<主催>弘前大学教育学部・人文社会科学部  
<問い合わせ先>  
探究学習を弘大生が応援するプロジェクト  
(事務局) 教育学部 加賀恵子研究室付  
0172-39-3440/kkaga@hirosaki-u.ac.jp

## 募集要項

- 1 テーマ  
「消費者市民社会の実現」に向け、消費者の立場から地域や社会、地球規模の課題解決に向けオリジナルな視点で探究しよう。  
※総合的な学習(探究)の時間、教科におけるPBL学習、部活動における探究活動を対象とします。
- 2 応募資格  
・探究活動が好きな生徒  
・探究活動の進め方に困っている、迷っている生徒
- 3 募集部門  
中学校部門、高等学校部門 (※個人、グループ可)
- 4 募集期間  
令和4年10月1日～11月15日
- 5 応募方法  
(1)事務局のHP (<https://kaga-office.org/>) より申込書フォーマットをダウンロードし、必要事項を記入する。  
※今後の探究学習に対して求めたい具体的なアドバイス内容があれば記述する。  
(アドバイスの返信時期：令和4年12月中旬を予定)  
(2)下記を参考に、PowerPoint等で作成したスライドをPDFデータに変換する。  
○背景・目的、方法、結果・考察に分ける。  
○OPPT作成に当たって、文献、論文、新聞、雑誌、インターネットなど第三者の研究・著作物を参考した場合は、出典を必ず明記すること。  
○スライド枚数に制限はないが、成果発表時間(8分程度)を目安に視聴できる範囲とする。  
(3)(1)(2)を添付ファイルにて、事務局宛提出する。kkaga@hirosaki-u.ac.jp  
※添付ファイル名は、以下の通りとする。  
(1)<探究申込 氏名(学校名)> (2)<スライド 氏名(学校名)>  
ファイル名(例) 探究申込 弘前さくら(津軽りんご高)
- 6 「消費者フォーラム HIROSAKI」での成果発表  
(1)秀いた探究活動は、ステージ発表ができる。  
※教育学部及び人文社会科学部の教員推薦による。  
※昨年度は、2名の高校生がステージ発表を行いました。→  
(2)応募の探究活動は、ポスター発表ができる。  
※開催予定：2023.1.21(土) 於 弘前大学みちのくホール
- 7 探究のポイント  
(1)探究テーマの背景について、十分に調べられている。  
(2)経験や教科での学びを基に、独自の視点から課題設定がなされている。  
(3)探究方法に創意工夫がある。  
(4)「消費者市民社会の実現」に向けた自分なりの提言がある。



「こんなときどうする？消費のギモンQ&A」  
青森県消費生活センター

